

1 産地の概要

＜対象地域＞ 津市
 ＜対象品目＞ 水稻種子



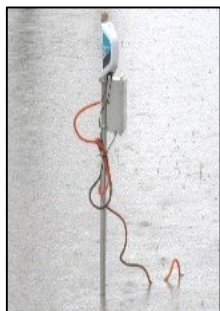
＜産地の現状・課題＞

- ・水稻農家における種子更新率は約90%と高く、流通する種子のうち県内産が75%を占めていることから、種子の安定供給には、種子生産規模の維持が重要である。
- ・種子生産では、一般栽培よりも種子への異物・異品種の混入防止対策が高度に求められる。
- ・種子への異物・異品種対策には、きめ細かな水管理や水田内除草が有効であるが、多くの時間と労力が必要となることから、新規に種子生産に参入する後継者が不足し、高齢化および減少が進んでいる。

2 検討体制

＜構成員と役割＞

- ・三重県米麦協会(役割:会計、検証機械調達、品質評価)
- ・JA三重中央(役割:生産者への指導、検証支援、効果検証)
- ・白山採種部会(役割:ほ場管理、労務データ等提供、効果検証)
- ・三重県農産園芸課(役割:連絡調整)
- ・三重県中央農業改良普及センター、津地域農業改良普及センター(役割:生産者への指導、検証支援、効果検証)



水位センサーによる管理の様子



機械除草の様子

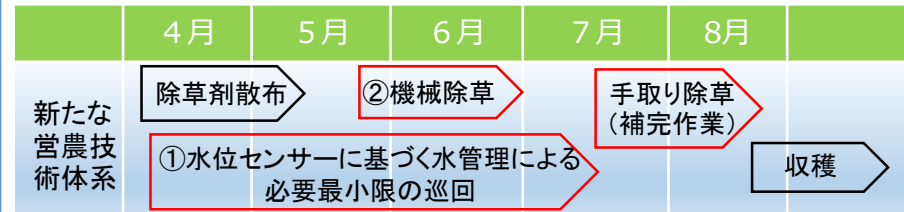
3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

スマート農業技術を活用した採種ほ場における管理作業の省力化により、種子生産への参入障壁をさげることで、産地規模の維持並びに、後継者の確保を目指す。



①水位センサー ②乗用型除草機の導入



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

- ・除草作業時間【現状】手取り:4.9時間/10a → 機械:15分/10a **約9割↓**
 (機械除草後、再活着等により雑草が再発した場合は、複数回除草を実施)

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R2	R3	R4
三重県米麦協会	機器導入支援		
JA三重中央会	生産者への栽培技術指導		
白山採取部会	新技術の活用と生産量の維持		
農産園芸課	連絡調整・視察受け入れ対応		
普及センター	新技術を活用した管理技術の普及		